

イスラエル グレープフルーツの収穫量が引き続き減少

[FreshPlaza 2024年10月25日](#)

イスラエルではグレープフルーツや柑橘類全般の生産量は減少しているが、輸出額に関しては依然として主要なプレーヤーの1つであると、イスラエルの柑橘類輸出業者プラネットイスラエル社の輸出マネージャーであるベサレル・オハナ氏は述べている。(以下「」は同氏の話)

「世界銀行によると、イスラエルはグレープフルーツの年間輸出額で、中国、オランダ、南アフリカに次いで世界第4位の国であり、スペインとトルコを上回っている。イスラエル産グレープフルーツの主要品種は、ホワイトマーシュ、赤肉系ではサンライズ(別名スタールビー)、リオレッド、レッドサンであり、スイーティーグリーングレープフルーツもある。出荷シーズンは9月にスイーティーで始まり、5月末頃に赤肉系の品種で終わる。」

オハナ氏は、生産量の減少は目新しいものではなく、実際には過去数シーズン見られる傾向であると強調する。「イスラエルではグレープフルーツ生産量が柑橘類の総生産量の約30%を占めており、主に赤肉系品種である。昨2023/24年度シーズンのグレープフルーツ総生産量は14万4千トンであった。これらのグレープフルーツの主体は加工業界向けであり、その量は9万8千トンで全体の68%を占めた。23%に当たる約3万3千トンが輸出用で、最後の1万3千トン、すなわち9%が国内市場向けであった。イスラエルのグレープフルーツ生産量は減少が続いており、今シーズンは合計14万4千トン、前シーズン(2022/23年度)は15万5千トン、2021/22年度は17万5千トンであった。」(以下省略)

執筆者: ニック・ピーターズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

トルコ 柑橘類は課題が多く生産量が全体的に減少

[FreshPlaza 2024年10月28日](#)

トルコの柑橘類のシーズンが始まり、同国の青果物輸出業者エレン社の販売マネージャーであるコスクン・エレン氏は、さまざまな柑橘類のほとんどに課題となる要素があるとして、「主に、極端な天候と気候変動の問題がある。高温と不規則な降雨パターンは、果実の成長を遅らせ、収量を減らす一因となっている。一般的に、この傾向は良くないが、すべての品種が悪い状況にあるわけではない。たとえば、マーコットマンダリンとオレンジの一部は、かなり有望な状況にある。全体として難しいシーズンではあるが、弊社の企画力と強力なサプライチェーンにより、引き続き需要に応じていく」と述べている。(以下「」は同氏の話)

総じて言えば、全体的に生産量の減少が予想され、エレン氏は、今シーズンはこれがマンダリンについて特に極端であると強調する。「今シーズンは、柑橘類の種類によっても異なるが、出荷量が著しく減少している。マンダリン品種については、早生品種を中心に昨シーズンと比較して50%も少ない。この減少の主な理由は、栽培面積の減少と悪天候である。しかし、マーコットマンダリンに関しては、収量と品質の両方で良いシーズンを期待している。グレープフルーツは全体的にマンダリンと同様の傾向のようであるが、この減少はトルコだけでなく世界的な問題である。レモンについては微減が見込まれる。(以下、中略)」

「(マンダリンとグレープフルーツについて)トルコでは昨シーズンに比べて収量が低下すると予想されるが、スペインのマンダリンの収穫量も20%以上減少すると予想される。グレープフルーツに関しては、ヨーロッパでの需要減少傾向が続いており、特にZ世代やアルファ世代などの若い世代はグレープフルーツの消費量が少ない。そのため、需要が増加している市場は、より魅力的になる可能性がある。」

全体として、同社は、この困難な柑橘類シーズンが確実にもたらすチャンスに飛び乗ることを望んでいる。「次の柑橘類シーズンに対する弊社の期待は、近年に比べて少ない収穫量と国内需要の高まりにより、価格が高止まりすることである。マンダリン市場では、収量の低下と旺盛な内需により、価格が高止まるだろう。弊社は輸出に重点を置いているため、国際市場でも価格が上昇すると期待している。一方、オレンジについては楽観的な見方をしており、収量と品質の両方でより生産的なシーズンになると予想している。課題は予想されるものの、弊社の目標は、現在の状況を最大限に活用し、製品の高い品質基準を維持することである。」

執筆者: ニック・ピーターズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)